

銚子の観光について

銚子市は太平洋と利根川により三方を水で囲まれた半島になっており、夏涼しく冬暖かい温暖な気候です。またその過ごしやすさに加え、日本屈指の水揚げ量を誇る銚子漁港を有し年間を通して海産物も豊富に獲れることから、新鮮な海の幸を求めて市外から多くの方が訪れます。

また、関東最東端に位置する犬吠埼は、山頂・離島を除き日本で一番早く初日の出を見ることができることから、元旦には多くの来訪者があり、ここ数年でも毎年5万人の人出を記録しています。

写真1
元旦の君ヶ浜から犬吠埼を望む



銚子市観光商工課の入込動向調べによると、銚子市に訪れる観光客の人数は、平成20年から22年までは年間約280万人でしたが、東日本大震災のあった平成23年は200万人まで減少、以降ゆるやかに回復し、28年には約230万人となっています。東日本大震災以降急激に落ち込んだ銚子観光ですが、平成24年9月には、銚子の地理的な成り立ちや地質そのものの貴重さが認められ、「銚子ジオパーク」として千葉県で初めて日本ジオパークのひとつに認定されました。この魅力を多くの観光のお客様に伝えようと市民も一丸となって取り組んでいます。



さらに平成28年3月には、銚子ジオパークの主要ジオサイトの一つである屏風ヶ浦が国の名勝・天然記念物に指定され、益々お客様をご案内したいスポットとなりました。

写真2
地球の丸く見える丘展望館から見た屏風ヶ浦

また、同年4月には成田市、佐倉市、香取市、銚子市にまたがる北総四都市の街並み群が「日本遺産」に認定されました。この日本遺産のストーリーとして、「江戸時代に磯巡りの観光客で賑わった銚子」というフレーズが盛り込まれています。

銚子は江戸時代から利根川水運を利用して物資や人々の交流が盛んに行われ、水産業や醤油醸造などの産業が発展してきました。それと同時に都に近く、雄大な自然を間近に感じられる地としてその景観や食を楽しむに多くの観光客を迎えてきました。



写真3

絵図 江戸時代の君ヶ浜海岸周辺の様子

(出典 市指定有形文化財紙本淡彩銚子名所絵図 銚子市教育委員会)

しかしながら時代が変わり交通事情の変化もあり、宿泊客に比べて圧倒的に日帰り客が多いという現状があります。銚子市観光商工課の調べでは、過去8年間において、日帰り客が200万人前後なのに対して宿泊客は20万人前後と、1割しか宿泊していないという状況が続いています。平成23年8月に銚子信用金庫を中心とした銚子観光振興協議会より出された報告書によると、銚子市での観光客の滞在時間は1～3時間以内が37.3%と最も多く、3～5時間以内が27.4%、5～8時間以内が19.5%となっており、短時間で銚子を離れてしまうお客様が多い反面、使用金額は3時間を境に滞在時間が長くなると増加する傾向があるとの結果が出ています。長時間滞在客、そして宿泊客を増やすことが銚子の経済を潤すことにもなります。

銚子の顔とも言える「犬吠埼灯台」、レトロな車両と駅舎の「銚子電鉄」、海を間近に感じる「犬吠埼温泉」、雄大な景色を楽しめる「地球の丸く見える丘展望館」、「銚子ポートタワー」や野生のイルカを船で観察できる「イルカウォッチング」などに加え、江戸時代から続く醤油工場や見学コースが新設された魚市場、一面広がるキャベツ畑、海風を利用した風力発電の風車群などの産業と絡めた観光スポットと、銚子は魅力、見所満載です。また、海から昇る朝日や、屏風ヶ浦や海に沈む夕日、海に月明かりが照らし階段のように見える「月への階段」、満点の星空などの美しい自然や、朝が早い銚子漁港の魚の水揚げ風景を楽しんでいただくためにも、是非宿泊していただきたいものです。私たちは、このように素晴らしい観光地「銚子」を一人でも多くの方に知っていただき、そして訪れていただきたいと思えます。

銚子市では、昨年に観光協会、市が中心となり、DMO準備室を立ち上げました。これは、国が推奨する日本版DMO(Destination Management / Marketing Organization)を参考に、銚子の特長、地域性を生かした地域の稼ぐ力を引き出す観光地域づくりの舵取り役となる組織「銚子版DMO」をつくっていくものです。

銚子という街全体が観光でつながり、訪れたお客様も、そこに暮らす人も満足できる地域づくりを目指していきます。